エピソードから保育を言語化する

～幼児期の終わりまでに育ってほしい「１０の姿」を通して～

稲沢市保育研究委員会
発表者　三輪 真奈美
的場 友紀

はじめに

４年前、研究を始めるにあたり、実りある研究にするため何を目指して行うのか、ねらいや目的を明確化するための話し合いを何度も重ねた。そして「研究を通して、稲沢市全体の保育の質を高めたい、保育が楽しいと思える保育士を育てたい」という共通の思いとしてまとまった。公私立、様々な状況の中でも志を一つにして市全体で取り組める意義を考えると、この研究は市全体の保育の質を高めるチャンスである。各園の独自性を考慮しつつ同じ方向を目指し、日々の保育実践において継続していける活きた研究にしよう、という共通認識を確認したのが研究のスタートであった。

保育園のリーダーとなり保育の中心を担う中堅保育士の不足や、短時間勤務保育士の導入により、会議等の話し合いの時間を持つことが難しい中で、「全ての保育士の保育の質の向上」「保育が楽しいと思える」ねらいをどう達成させるのか、取り組みを進める仕組み作りや方法を探った。

１　目的

保育所保育指針に基づく保育の質の向上と、保育が楽しいと思える保育士を育成するために、市全体で継続して行える実践方法を検討する。

２　方法

（1）　期間　　平成２８年４月～

（2）　対象　　稲沢市立保育園１８園と私立保育園１４園の保育士　約６００名
（平成３１年４月より私立保育園１園が認定こども園となる）

（3）　方法　　・保育研究委員会を設立し、各保育園から代表１名参加
・現状の課題について、各保育園で意見をまとめ、毎月の委員会にて検討
・研究委員会以外にも、稲沢市主催の研修や、園長会議・主任保育士会議、各種担当者会議等でも研究に関する取り組みを行い、多くの保育士が研究に参加

本研究全体の流れ

Ｈ２８年度

（１）現状の分析

気づきのポイント
1

・保育の問題点の洗い出し

・全保育士へのアンケート実施（第１回）

Ｈ２９年度

（２）基礎学習

〈保育所保育指針学びと周知〉

気づきのポイント
2

・保育所保育指針の学び
（研修・学習会等）

・保育を言語化する練習
「養護と教育が一体となった保育の言語化」研修用ワークブック

・保護者・保育士向けリーフレットの作成
及び掲示・配布

Ｈ３０年度

（３）園内外での事例検討
・園内、各種会議、担当者会議、全体会等

〈保育の言語化の実施〉

気づきのポイント
3

・各園で場面シート様式検討

・テーマ決定

・全園統一場面シート様式完成

・全保育士へのアンケート実施（第２回）

・保護者アンケート実施

気づきのポイント
5

気づきのポイント
4

Ｒ１年度

〈保育の言語化の発展〉

（４）保育の言語化発信
・ドキュメンテーション
連絡ノート
・クラス便り、園便り

（５）その他の取り組み
・指導計画、保育の記録
などの記録や連絡ノー
ト、行事の見直し

３　実践

（１）　現状の分析

保育の問題点について洗い出し　　３つのカテゴリーに分けて分析

子ども

発育・発達

・不器用、力加減が分からない

・体幹が弱い、怪我をしやすい、疲れやすい

集団生活

・自己主張が強く我慢できない

・自分の思いを表現できず指示を待つ

・友達同士の関わり方が難しい

保護者

子育て不安

・子育てに自信がない

・要望と権利の主張

発達理解

・過保護と放任の両極性

・発達理解への認識の違い

保育士

積極性

・行事に追われ自由遊びは見守りが中心

・怪我に臆病になり存分に遊ばせられない

保育技術

・設定保育中心の保育環境

・自由遊びの環境構成と援助がわからない

子どもの発達理解

・一人一人に合った関わり、援助の難しさ

気づきのポイント１

★子どもを観る力をつける必要があると同時に子どもの育ちを捉える見方が大切。

★保育の質を高めるには保育所保育指針を学ぶことが必要。

（２）　基礎学習　　新しい保育所保育指針を学ぶ中で自分たちの保育の振り返り

・新旧保育所保育指針の対比　（勉強会）

新旧を比較することで、変更箇所の意味を探った

・新保育所保育指針を学ぶ　（研修会）

乳児保育に関する記載が充実、子ども主体の保育

幼児教育を行う施設として共有すべき事項

「育みたい資質・能力」　「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」

講師からのアドバイス

※保育所保育指針を日常的に使うようになれば、保育を語る言葉が変わり、保育の言語化に繋がる

※意識≠保育の質　　保育士の行動を変えよう！

気づきのポイント２

★１０年前に行った「心が揺れ動く保育」の中での「つぶやき」に関する研究の意義を再確認し、これからはつぶやきを拾うだけでなく、その場面や言葉の奥底にある子どもの思いや育ちを言葉で表現しよう。

・場面を言語化する…テキストを使って練習

全国保育士会「養護と教育が一体となった保育の言語化研修用ワークブック」

・同じテキストを使って事例検討を行う事で考え方や方向性の統一

・各園でグループ分けや時間の使い方を工夫　　・付箋を利用

・時間をかけずに楽しく話し合う雰囲気作り　　・５領域と養護を意識

・考え方や気づきを保育実践に繋げる難しさを痛感

・リーフレットを作成して保育所保育指針改訂や保育の意義を保育士や保護者へ配布

（３）園内外での事例検討

・各園の保育場面を取り上げ、保護者に一番伝えたい「１０の姿」を使って子どもの育ちを語る

・事例検討で使用する『場面シート』の様式の作成に試行錯誤で取り組む

様式は各園から全園統一へ

【事例検討を進めていく中で出てきた意見】

写真が撮りづらい
事例検討では保育士が困る場面ばかり出てくる
子どもの心が動く場面をタイミングよく撮れない

講師からのアドバイス

ニュージーランド

ラーニングストーリー５つの観点

子どもの学びの記録

1　興味を持っている場面

2　夢中になっている場面

3　チャレンジしている場面

4　気持ちを表現している場面

5　役割を果たしている場面

特定の人ばかり話してしまう
時間がかかる・自主性を促すのが難しい
職員全員での話し合いが出来ない

講師からのアドバイス

話し合いのルール

1　肯定的に聴く

2　負の意見は出さない

3　うなずく

4　笑顔で聴く

5　正しさを求めない

6　５分、１０分など園に応じて話し合う時間を決め、途中になっても時間は必ず守る

7　上手くいかなければ方法を変える

講師からのアドバイス

※各園から出てきた難しさを克服すれば必ず学びがある。

※小さな改善を各園で取り組むことが必要。

※子どもは本来主体性がある。それをどう発揮させるかを考えると良い。

※なぜ言語化するのかを理解して、話し合いの時間を守り生産的に進める。

※写真は可視化のために良い。

※１０の姿への論理的飛躍をしないで５領域を通して、分析することが大切。

※保育所保育指針に基づいて見える子どもの姿 - 内容 - １０の姿と構造を考える必要がある。

気づきのポイント３

★保育を言葉にする→保育所保育指針に基づいた（指針の文言を使った）保育の言語化をする力を付けることで専門性が向上する→保育の質の向上に繋がることを確信した。

『研究テーマ決定』　キーワード：幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿

・各場面で１０の姿のうち、保護者に１番伝えたいものをピックアップし、記入する。

各園で場面シートを用いて事例検討

研究委員会やその他の会議で話し合ったことを園に持ち帰り報告

〈話し合いのために各園で行った工夫〉

話し合いの時間を１５分と決めた	取り組みの前後の写真も撮り、話し合うと、話し合いが深まった
短時間保育士にも取り組んでいる内容を伝えるために、場面シートを休憩室の壁に貼った	話しやすくするためにグループ分けを工夫した 年代別、経験年数別、担当別

市全体の保育の質の向上には、園の垣根を取り払うとともに、多様な働き方の保育士達とも学び合う場が必要「できるだけたくさんの保育士が集まれる事例検討会を開こう」

事例検討した中から５事例の場面シートを抽出し、保育士研修の場で学び合った。

Ｈ３０．１１．１０（土）　「エピソードから保育を言語化する」

講師：矢藤誠慈郎　氏　　参加者２５０名

＜０歳児＞

「エピソードから保育を言語化する　～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通して～　」

～伝えたくなる子どもの今～

タイトル「　　水あそび　　」　　年次　0 歳児　　H　30 年 7月　　11日　　信竜

写真

＜保育の内容[3つの視点]＞
保護者に一番伝えたいことは何ですか。

健康な心と体

【実際に保護者に伝えた方法と内容】

・連絡帳に記入する。

「今日はテラスで水あそびをしました。
昨日は、少し水に触れることを嫌がっていたCちゃんでしたが、今日も初めのうちは近くで眺めていたのですが、保育士が少し足元に水をかけたり、お友だちが楽しそうに水を触って遊ぶ様子を見ていると、気になったのか自分で水に手を伸ばしていました。
少しずつ慣れてきたのか、両手で水面をパシャパシャ叩いて笑っていましたよ。」

保育の場面（子どもの姿やつぶやき）	保育士の思い（環境構成や働きかけ）
・桶に入ってあそんでいるKくんの様子を水に抵抗のある様子のCちゃんが、近くで立って眺めていた。 ・Kくんが両足を動かし水しぶきあげるとを、その水がCちゃん顔にかかり驚いた表情をしたが、その後笑顔になった。 ・保育士が「Cちゃん、お水冷たくて気持ちいいよ」と言いながら、、ジョウロで足元に水をかけると、嬉しそうに笑って、“もう一回やって”といった表情で保育士のほうに近づいてきた。 ・「Kくんと一緒に触ってみる？」と保育士がKくんの入っている桶の水を触って水しぶきをたてると、Kくんも同じように水面を叩いて水しぶきをつくっていた。 ・しばらく立って眺めていたCちゃんだったが、保育士とKくんの様子を見てしゃがみ、自分から水に触れ、水面を叩き始めた。 ・水しぶきが体や顔にかかっていたが、かかることが楽しく、気持ちよかったのか、水面を叩きながら笑っていた。	・Cちゃんも抵抗なく水に触って遊ぶことができるといいな。 ・どうしたら遊べるかな？ ・水がかかることが嫌なわけではないのかな？ ・足元や手に水をかけてみて水の感触を味わわせてみよう。 ・自分から水に触れられるといいな。 ・自分から水に触れられたね。
この場面から読み取れる他の保育の内容[3つの視点]は何があるのか話し合いましょう	**担任保育士の気づき**
ア　②　水に興味を持つことで近づいてきたり、体の発達にもつながっていく。 イ　②　表情や声を聞きながら保育士が関わったことで見られた。 ④　保育士の関わりが言葉の理解につながる。 ウ　①　水あそびを通して水への興味、好奇心を持つ。 ③　Kくんとの関わりを持つことができればつながるのでは？ ⑥　水しぶきのしくみ ⑦　水あそびをさらに深めていく ⑩　水を通して様々な感覚が芽生える	話し合いを通して、自分一人で見る視点だけでなく、他の先生の意見を聞くことで、自分の言葉がけや行動が様々なことにつながっていくことに気づいた。 日々の保育の中で常に考えておくことは難しいが、振り返りの機会を持つことで自分の保育を見直すきっかけになると思った。

【養護】

イ　①
③

保育の内容[3つの視点]

～身体的発達～
【健やかに伸び伸びと育つ】
①

～社会的発達～
【身近な人と気持ちが通じ合う】
③

～精神的発達～
【身近なものと関わり感性が育つ】
②

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

① 健康な心と体
② 自立心
③ 協同性
④ 道徳性・規範意識の芽生え
⑤ 社会生活とのかかわり
⑥ 思考力の芽生え
⑦ 自然との関わり・生命尊重
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨ 言葉による伝え合い
⑩豊かな感性と表現

＜４歳児＞

「エピソードから保育を言語化する　～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通して～　」

～　伝えたくなる子どもの今　～

タイトル
「プール遊び(船作り)」

年次　／　4歳児
日付　／ 平成30年8月31日

保育園

《幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿》
保護者に一番伝えたいことは何ですか。

協同性

【 実際に保護者に伝えた方法と内容 】
プール遊びで、ペットボトルの船を作り、乗りたいという話になり、どうやって作るとかを友達と話し合っていました。
K君は、ペットボトルを真っ直ぐにくっつけるだけではなくて、持つところもイメージして「ここにくっつけよう」と提案したり、作り方、くっつけ方をリードしていたんです。
家庭で海やプールに行かれると浮き輪等を見る機会があって、そういう経験からイメージにつながったかもしれないですね。
経験って大事ですね。
自分の意見を友達に伝えたり、一緒に作り上げたことを喜び合ったりなどの気持ちの共有ができるって成長ですね。

保育の場面（子どもの姿やつぶやき）	保育士の思い（環境構成や働きかけ）
子／　ビート板がもっと欲しい 子／　ペットボトルのビート板の上に乗ろうとする。 ⬇（ 乗れない ） 保／「乗れなかったね、乗れたら楽しそうだね。どうしよう?」 K君／「大きくしたら乗れる」 保／「大きくしてみる?」 子／「作りたい!!」 ・子ども同士で「これをくっつけよう」などと話し合いながら、ペットボトルをくっつけていく。 R君／「これどうしよう?」 K君／「持つとこにしよ。ここ持ってて。」 R君／「うん。」 ⬇（ 完成 ） K君とR君、周りで手伝った子、見てた子が「できた!!」と。 2人で目を合わせて喜ぶ。周りの子も喜ぶ。 ⬇ 実際にプールで完成した船に乗って遊んだ。 ⬇ 壊れると次のプールまでに直して遊ぶ姿が見られた。	➡・ペットボトルを2つくっつけビート板を用意する。 （子どもからペットボトルをくっつけようと提案がある。） ➡・作りたい気持ちを受け止め、ペットボトル、布ガムテープを用意する。 ・布ガムテープはどうするとつけられるか、使い方は一緒に行い知らせる。 ➡・残ったペットボトルがあったので「これどうしようか?」と声をかける。 ・子ども同士で話し合い、船を作っていく様子を見守りつつ必要に応じて援助(布ガムをしりっかりつけること、つけ方)言葉掛けをしていった。 ・2人の世界を見守るために周りの子に「見てようか」と声を掛ける。 ・ビート板作りのペットボトルも「段ボールで作る」と言う子もいたので、段ボールを水に浮かべてどうなるのかを観察した。
この場面から読み取れる他の10の姿は何があるのか話し合いましょう	担任保育士の気づき
自立心➡自分達で考えるところ。友達や保育士と最後まで仕上げ、完成させたところ、壊れたら直してまた遊ぶところ。 社会生活とのかかわり➡経験したことを行う。考えたところ。（年中らしい） 協同性➡友達と作るところ。 思考力の芽生え➡試行錯誤しながら作っていく姿。 言葉による伝え合い➡「どうする?」「こうしよう」などのやりとり。 豊かな感性と表現➡イメージを持って表現する姿	・普段、自分の思いを通したい2人が友達の意見を取り入れて協力していく姿に成長を感じた。 ・子ども同士の言葉のやりとりの中で、協力したり、役割分担を自分達で行ったりと、1つのものを作っていく姿から、常に知らせるだけではなく、必要な時のみ言葉掛け、援助をし、見守ることの大切さを改めて感じた。 ・クラスの子全員が今回のようにはならないが、一人ひとりへの見守りを増やしていきたい。

【 養 護 】
イ. 情緒の安定
①②③

保育の内容[五領域]

【 健 康 】
①④

【 人 間 関 係 】
②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫

【 環 境 】
②⑧⑨

【 言 葉 】
①②③④⑧

【 表 現 】
①④⑤⑦

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

① 健康な心と体
② 自立心
③ 協同性
④ 道徳性・規範意識の芽生え
⑤ 社会生活とのかかわり
⑥ 思考力の芽生え
⑦ 自然との関わり・生命尊重
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨ 言葉による伝え合い
⑩ 豊かな感性と表現

【４歳児の事例を提供した保育士のことば】　　保育歴　　１０年目

子ども主体の保育を進める中で、子ども同士がトラブルになった時、保育士が双方の言い合う姿を出来るだけ声を掛けずに傍で見守ることを繰り返すうちに、子どもたちは自分の気持ちを言葉で伝え、相手の気持ちを受け入れることで折り合いをつけられるようになりました。これは、遊びには協力が必要と気付き、自分達で話し合おうとする姿が見られるようになった頃の事例です。保護者に対して、保育士が、子ども自らできるようになりたいと思って努力した過程を伝えることで、できなくても粘り強く頑張る力の大切さに気付くなど、我が子への見方が変わり、努力する過程を褒める変化を感じます。

講師からのアドバイス

※問いかけが多くなっているのは良い傾向。　※保育士は、子どもの理解者であり共同作業者。

※保育士の小さな試行錯誤が大事。試すことで保育の質は向上する。具体的な行為の変化が必要。

※子ども達が育っているプロセスを大切に。

※当たり前の小さな事も子どもの育ちとして１つ１つ理解していく事が大事（振り返りが大事)。

※遊びが学びになる。子どもが遊びを作り出すのでドキュメンテーション等で伝える。

【場面シートに取り組んで気付いたこと - 各園からの報告】

〇子どもを観る力

・設定場面より自由に遊んでいる場面で、子どもの育ちに目を向け、どんな育ちがあるのか、子どもの良い所を観ようという意識が高まった。　・子どもの姿や言葉、表情など気にして観るようになった。

・保育指針を開く事が習慣になり、育っている姿を照らし合わせる事を継続して行っている。１０の姿のどれに当てはまるのか予測できるようになった。

・子どもの姿を注視するようになったため、環境を整える時に子どもの視点を大切にするようになった。

〇子どもへの関わり

・子どもの遊びの中に多く入るようになったが、必要な時にだけ声をかけるようになった。

・子どものつぶやきや子ども同士のやり取りを注意して聞くようになった。

・日頃、注意してしまう事が多い子ほど自由な発想があり、褒める機会が増えた。

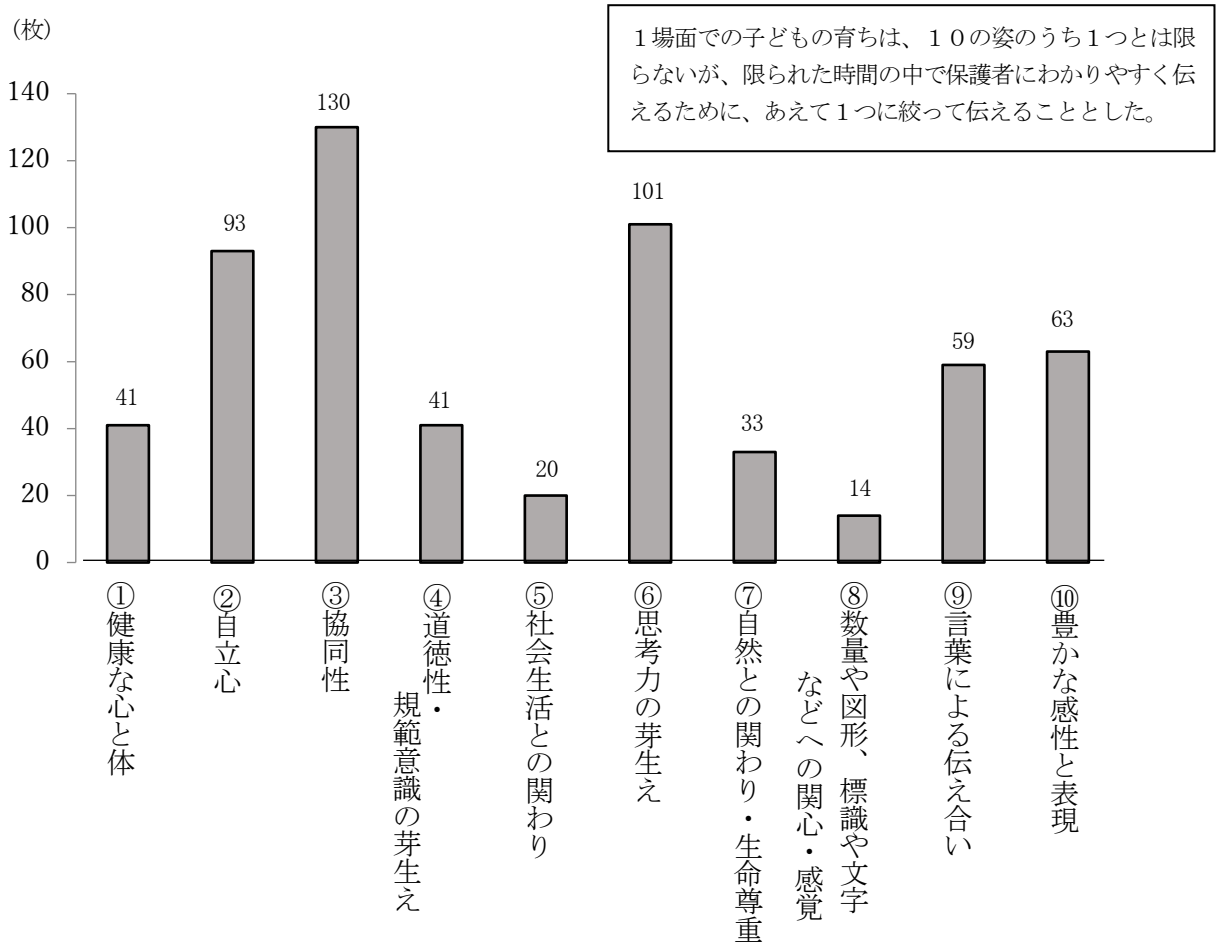
〇保護者への関わり

・何をして遊んだかではなく、どのような事が育っているか、育てようとしているかを明確に伝えるようにしている。小さな気づきや変化、些細な事でも成長を感じたら保護者に伝えるようになった。

〇保育士間の連携

・場面シートを使って保育士間で意見を交換し合う事で、自分とは違う育ちの捉え方、保護者への伝え方を知ることが出来た。　・若い保育士とベテラン保育士のコミュニケーションの機会が増えた。

場面シートを使って保育士が保護者に伝えた「１０の姿」の内訳



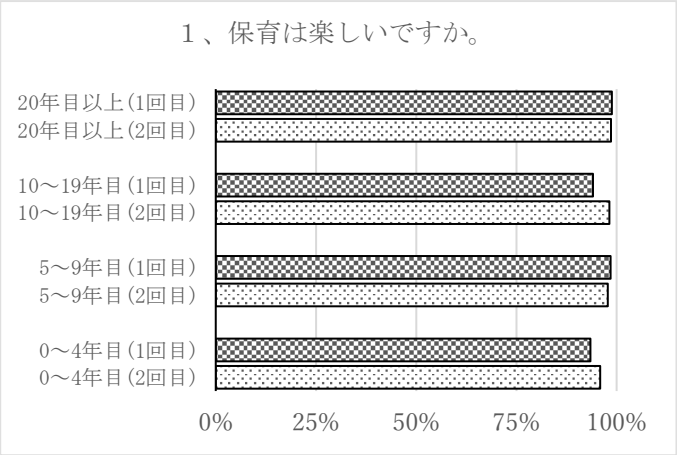
【場面シートの取り組みに関する考察】

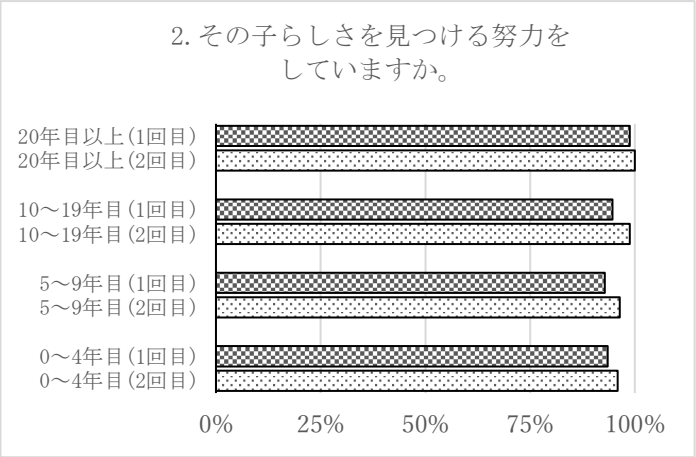
取り組んだ最初の頃は、「保育所保育指針に繋げていくことは難しい」「保育の言語化ってどうすればいいのか分からない」「写真を撮るのが難しい」というマイナスの意見が多く出ていたが、１年間取り組んでみて保育士からの感想は、「子どもの写真を撮ることが楽しい」「場面シートを実施することで、保護者に伝えたいことがたくさん出てきて、この伝えたいことが保育の言語化なのだということが分かった」等、前向きな意見が増加した。

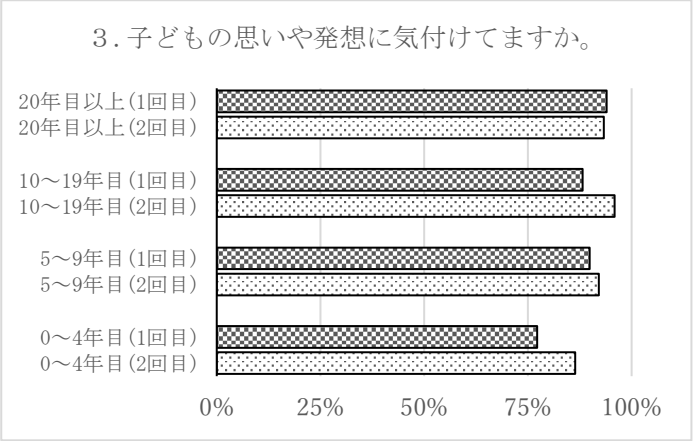
「協同性」については、保護者も一番気にしている項目で、この項目を重視して保育する保育士が多く、保護者に対しての説明もしやすい。反対に「社会生活との関わり」や「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」については、今まで保育の中ではあまり意識していなかった部分であり、保育士の意識の薄さが露呈したといえよう。今後は、保育園が幼児教育機関として位置付けられた事を踏まえ、１０の姿がバランスよく育つためには、子ども達がそれらの育ちに繋がるような経験ができるよう、年長児に限らず乳児の時から年長児後半の子どもの姿に繋がっていく事を見据えて、環境設定や意図的な関わりを行っていくことが必要である。

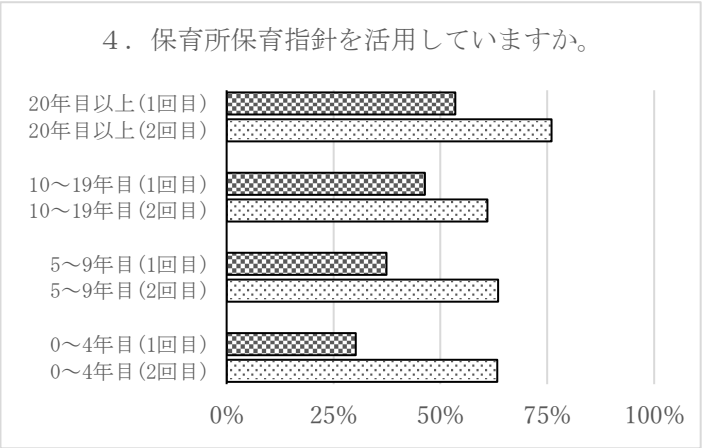
【保育士へのアンケート結果】　　実施日　１回目　平成２９年　６月２２日

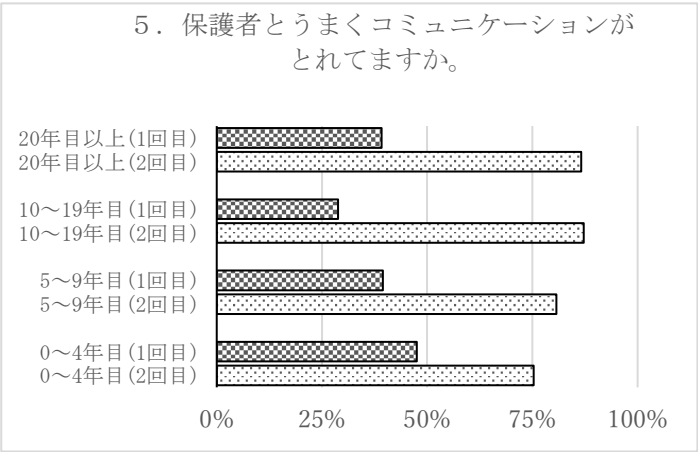
２回目　平成３０年１２月１８日

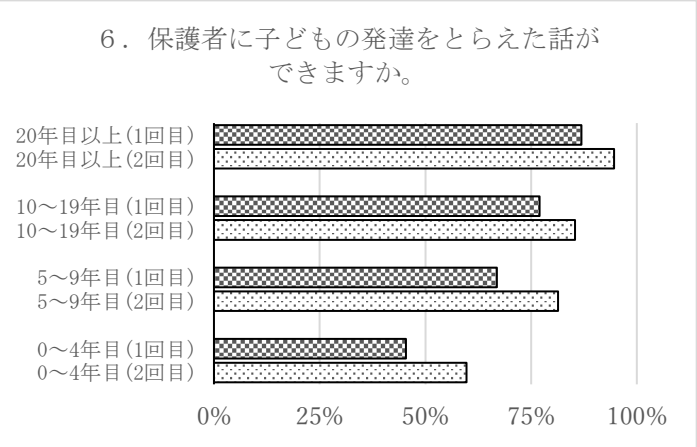












【保育士へのアンケートに関する考察】

・「子どもの思いや発想に気付けていますか」という問いについて、１回目が低かった理由は、１０年未満では、経験不足から保育に自信が持てない、１０年目以降では、クラス担任でない保育士が増えるためではないか。増加した理由は、取り組みを機に再び意識するようになったと考えられる。

・場面シートに取り組むことで、保育所保育指針の活用はどの年代でも大きく伸びた。

・どの年代も保護者とのコミュニケーションの伸びが大きいのは、場面シートを通じて子どもの育ちを保育士間で語り合うことで、発達を捉えた話を保護者にする自信がついた結果と考える。年齢に比例して伸びているのは、経験を積むことで保育に関する知識が増え、保護者との話題が豊富となることで余裕が生まれるためだと考えられる。

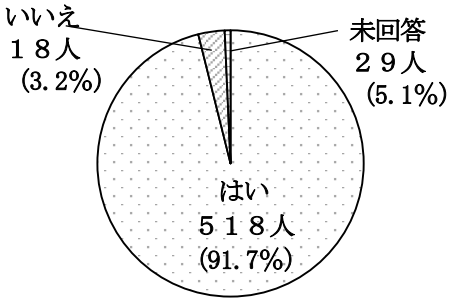
以上のことから

→子どもの育ちが自分の喜びとなり、保育士の自己肯定感に繋がった。

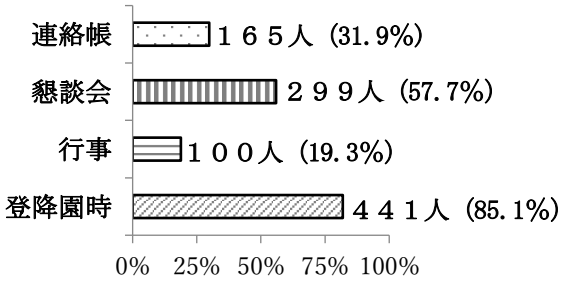
→保育士として大切にすることは変わらないが、大切にするものに広がりが出た。

【保護者アンケート結果】　実施日　平成３１年３月　市内年長児の保護者５６５人回答

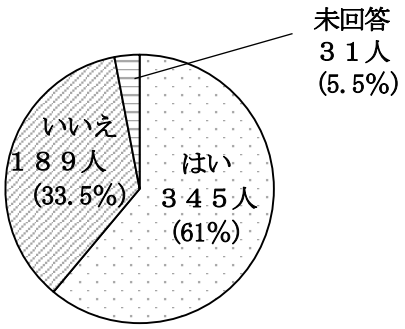
設問１　お子さんの育ちについて、保育士から話を聞く機会がありますか。



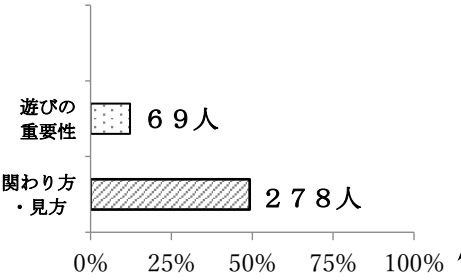
設問１で「はい」と答えた方にお聞きします。それは、どんな時ですか。（複数回答）



設問２　保育士からお子さんの育ちについての話を聞き保護者の方自身、今までと変化したことはありますか。



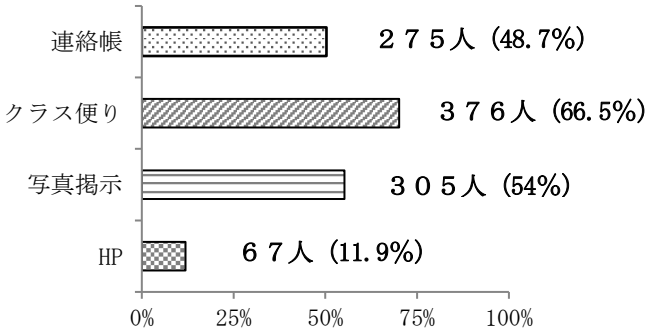
設問２で「はい」と答えた方にお聞きします。それは、どんなことですか。（複数回答）



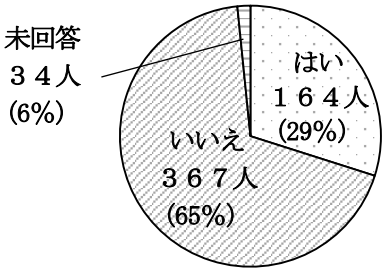
＊その他の意見

・子どもと話す機会が増えた。
・遊びの中での発見や興味が成長につながっていることがわかった。
・子どもの見守り方や褒めることの大切さを知った。
・担任保育士から話を聞き同じ言葉をかけるようになった。
・子どもと向き合って一緒に遊ぶようになった。
・いいところを見るよう心がけるようになった。　　等

設問３　お子さんの園での様子を知る手立てとしてどんな方法がわかりやすいですか。（複数回答）



設問４　今回の保育指針の改定に伴い、小学校との接続をスムーズにするために保育園・幼稚園・認定こども園と小学校が共有していく「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を示されましたが、それを見たり聞いたりしたことがありますか。



【保護者アンケートに関する考察】

保護者は園での子どもの様子を主にクラス便りや連絡ノート、写真掲示によるドキュメンテーションで知り、同時に子どもの育ちを知ることにも繋がっている。また、子どもの育ちを知ることで家庭での子どもとの関わり方や見方が変わり、子どもの育ちを保育士と共感し合い、子育ての悩みの解決の糸口にもなっている。さらに、園での遊びこそが学びであり、遊びを通して色々な子どもの育ちが見られるということで、園での子どもの様子に今まで以上に興味・関心を持っている。

各保育園では、保育所保育指針の改定に伴ってリーフレット作成、配布、説明と機会をつくって園全体又は個人的に知らせてきたが、問４の結果を見ると認知度はまだまだ低いので、子どもの育ちを保育所保育指針の中の「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」に沿って、今後も機会を作ってわかりやすく伝え、小学校以降にもこの育ちが繋がっていくことを発信し続けていく必要がある。

★場面シートの学びを保育の中で活かしたい
「ドキュメンテーション」「園便り」「場面シート」などを保護者に向けて発信しよう。

（４）保育の言語化発信

・ドキュメンテーション、乳児の連絡ノート、クラス日誌、クラス便り、園便り等各園独自の方法を、情報として伝え合う中で刺激となり、参考にするようになった。
・若い保育士達の情報交換の場は、自分の成果を見せ合う事により自信をつける場となった。
・個人情報の取り扱いについては、承諾書をとって対応している。（掲載不可の方への配慮）

保護者向けリーフレット

養護と教育が一体となった保育とは

～保育園は、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てます～

養護とは

子どもが心身ともに心地よいと感じる環境を整え、子ども自身が主体的に育つことをたすける営み

教育とは

「感じる・探る・気づく」といった子どもの興味・関心を引き出すこと

3歳2か月のAちゃんが、砂場で砂遊びをしています。

保育者の真似をして砂をスコップですくい、何度も手のひらに乗せ固めようとしていました。最初はうまく固まらず、地面に置いたらすぐに壊れてしまう団子でしたが、何度も作るうちに固く丸い団子が作れるようになり、いつしか友達と一緒に団子作りを楽しめるようになりました。

この遊びの中での「子どもの育ちや学び」「保育者の援助」とは何でしょうか？

子どもの育ちや学び

保育者の援助(養護と教育)

壊れちゃって悲しかったね。もう1回作ってみよう！（共感と励まし）

もう少しギュッとにぎってみよう！（手先の力加減）

たのしい！もう1かいやってみよう！（繰り返しやってみようとする意欲）

援助が先回りしすぎないように配慮

砂が目に入らないように安全に配慮

すなにおみずをまぜたらこわれなくなるんだ‥（砂の性質に気づく）

うまくできない・・・「せんせい、やって！」（言葉による伝え合い）

こんどはともだちといっしょにやりたい！（人との楽しい時間の共有）

プリンもつくってみよう！（新たなことをしようとする）

子どものそばで見守り、応答する

子どもの何気ない行動一つ一つに、それぞれの子どもの育ちや発達を意識し、目標を持ってかかわっています。

子どもの気持ちに寄り添い、行動や表情に表面化されない「気持ち」や「心の動き」を読みとることで、よりよい育ちや学びにつなげるよう働きかけています。

保育士向けリーフレット

養護と教育が一体となった保育とは

～保育園は、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てます～

3つの柱（資質・能力）

小学校以上の教科

- 学びに向かう力・人間性等
- 思考力・判断力・表現力等の基礎
- 知識及び技能の基礎

幼児期から始まって、小学校・中学校・高校と伸びていく中心的な子どもの力の有り方であり、3つの縦に貫く柱を構成しています。

保育園で育つもの

教育

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

5歳児後半の子どもに、どんな資質・能力が育っているかという保育の評価軸です。小学校・中学校・高校とさらに成長していきます。

1歳児から5歳児の子ども達の育ちをみる5つの領域

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

自分との関わり、人との関わり、物との関わり

養護

0歳児の子ども達の育ちをみる3つの視点

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な心と体	生活習慣を身に付け、「何のためにするのか」を理解していく。やりたいことに向かって心と体を働かせ、自ら健康で安全な生活を送ります。	思考力の芽生え	「なぜだろう？」「こうなのかな？」「こうしてみよう！」と考えたり、試したり、討論することで、物事について良く考え、探究する喜びや楽しさを育てます。
自立心	自ら環境に関わり「諦めずに頑張る」をもとに自信や満足感を育てます。	自然との関わり・生命尊重	自然や生き物との関わりの中で、好奇心・探究心・愛情・畏敬の念を育てます。
協同性	友達と一緒にすると楽しいという経験を通して、協力することの楽しさや面白さを実感し、自分も相手も満足できるように工夫していく方法を身に付けていきます。	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	数量・図形・文字・標識などに親しみ、分かる喜びや使う楽しさから役割や必要性を感じ、興味や関心・感覚を深めます。
道徳性・規範意識の芽生え	自分の気持ちを調整する力が育ち、人への思いやりやルールの理解を深めます。	言葉による伝え合い	心を通わせたり、絵本や物語に親しみ、言葉や表現を身に付け伝え合いを楽しみます。
社会生活との関わり	家族や地域の人、公共の施設や場所等、社会とつながる意識の芽生えを育てます。	豊かな感性と表現	心を動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを表現する喜びを味わいます。

運動会のプログラムの裏面

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

運動遊びの中には
こんな学びがあって
こんな育ちがあります！

～協同性～　～思考力の芽生え～
話し合いをして、一緒に考え、順番を決めたり、バトン練習をして、どんどん仲間意識が強くなっていきました。

～健康な心と体～
全身を使い、自分のやりたい事に向かって、伸び伸びと取り組んでいます。

～豊かな感性と表現～
音楽に合わせ、楽しい気持ちや嬉しい気持ちを、体いっぱいで表現しています。

～自立心～
勝ちたい！できるようになりたい！という気持ちが育っています。

～言葉による伝え合い～
「がんばれ～！」「がんばるぞ～！」と友達を一生懸命に応援しています。

連絡ノート

年月日　2019年 2月20日（木）

おむかえの時間

通常通り
変ります（　時　分）
（　　）

園での様子

行って頂けて中島先生も喜んでいました♡今日は今年度最後のほうけんの日！最初のおけちが部屋に慣れず泣いたり遊び出すまでに時間が掛かったりしていましたが、今ではとってもたくさん遊べるようになったな～とちょっぴり感じました。ごっこの部屋ではキッチンのおもちゃ

園からの連絡事項

なし　いなし

外傷

クラス便り

らいおんぐみだより　令和元年　9月13日

最近、大きな紙に絵を描くことにはまっているらいおんさん!!
前は1人で描いていたけれど
みんなで描くことに
夢中になって
います!!

僕は
木を描くね!!

次は
何を描く
いいかな?

かぶとむしは
みつに集まって
くるよ!!

サッカー場は
草がはえてる
よね!!

ゴールキーパー
は誰に
する?

お客さん
も描かなくちゃ!!

描くだけではなく、
一緒に描いている子と「どう
したらいい?」「僕はこう描くね」
と言葉で伝え合いながら描く
姿がとても印象的でした!!

こんな育ちがあります！！
（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿より）

◎健康な心と体
◎自立心
◎協同性
◎道徳性・規範意識の芽生え
◎社会生活との関わり
◎思考力の芽生え
◎自然との関わり・生命尊重
◎数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
◎言葉による伝え合い
◎豊かな感性と表現

クラス便り

ひよこぐみだより

制作遊び

豊かな感性と表現

ステージショー

運動遊び
～健康な心と体～

ままごと遊び
～言葉による伝え合い～

ブロック遊び
～思考力の芽生え～

虫とり
～自然との関わり 生命尊重～

クラス便り
（ホームページ）

気づきのポイント５

★場面シートやドキュメンテーションを既存の保育の記録に活用したい
★行事のあり方や取り組み方について、疑問に思う事が出てきた
★子ども達のために、今後も保育を言語化して伝えていく事が保育士の役目

（５）その他の取り組み

・指導案、保育要録等の様式や書き方の検討開始
・行事の紹介から日々の生活や遊びの場面の説明に変化→結果として行事の内容やあり方の見直し
・各園単位で、場面シートを使っての話し合いの継続
・ドキュメンテーションをホームページ上でも閲覧可能にし、稲沢市の幼児教育について情報発信

Ⅳ　全体考察

本研究の「保育の質を高める、保育が楽しいと思える保育士を育成する」という共通の目的のもと、４年間、公私立全保育士が同じ方向を向いて学びや実践を行ってきた。稲沢市が「子育て教育は稲沢で」をスローガンにして保育や教育の質の向上を目指していることからも、その意義は大きいと感じる。

本研究を通して、思いだけでなく行動を変えることで保育に対する自信がつき、主体性が育ち、結果として保育が楽しいと思える保育士が増加したことは大きな成果であった。また、取り組みの結果、各園が行事や書類の見直しの必要性を感じ、少しずつ今まで当たり前に行ってきた保育の見直しが進んでいる。保育実践を重ねることが「保育の質の向上＝保育が楽しくなる」のであり、保育士は、多忙な業務の改善を単なる簡素化や効率化にだけ求めていないことに気づいた。今後は、さらに保育の質の向上と業務改善を並行して進めていき、「働いていて楽しくやりがいを感じる状況＝ワークハピネス」を自分たちで作り出し、その結果、共に楽しく保育する仲間を増やすよう努力していきたい。

保護者に対しては、保育士が生活と遊びを通した保育の営みを、子どもの小さな育ちとともに言語化して伝えることで、保護者も楽しく子育て出来るようにすることが保育園の重要な役割であると、再認識した。そのために、今後も保護者や地域への保育の情報発信を継続し、小学校との連携ではなく接続を意識した取り組みを行う等、皆で一人一人の子どもの育ちを支え、子ども達が様々な体験ができる保育環境を共に作っていきたい。

【参考文献】

・保育所保育指針　厚生労働省
・「養護と教育が一体となった保育の言語化」「研修用ワークブック」
　～保育に対する理解の促進と、さらなる保育の資質向上に向けて～
　社会福祉法人　全国社会福祉協議会　全国保育士会　保育の言語化等検討特別委員会
・「保育の質を高めるチームづくり」園と保育者の成長を支える　　わかば社　　著者　矢藤誠慈郎
・「手がるに園内研修メイキング」みんなでつくる保育の力
　わかば社　　著者　那須信樹　矢藤誠慈郎　　他４名